

社会福祉法人 高田真善会

創刊号
2020年1月発行

報徳園だより

〒514-0065 三重県津市河辺町 1317-1
TEL:059-228-1951 FAX:059-228-1952 <http://www.houtokuen.jp/>

題字 理事長 常磐井猷麿



創刊のご挨拶

園長 千草篤麿

昭和56年（1981年）4月に社会福祉法人高田真善会が特別養護老人ホーム報徳園を定員50人で設立してから、早くも40年目に入ろうとしています。施設の礎を築かれた初代常磐井堯禊理事長、初代千草松生園長ともに故人となりました。その後を引き継がれた常磐井猷麿現理事長と千草士朗前園長が福祉事業を発展させ、現在では入所定員110人、短期入所定員15人の特別養護老人ホームにデイサービスセンター及び在宅介護支援センターを併設した総合的な老人福祉施設としての報徳園となっています。

本法人の理念である「施無畏」は、仏教の教えである「三施」（財施、法施、施無畏）の一つで、仏教福祉の心を表す言葉です。財施は財を施すことであり、法施は仏教の教えを説いて施すことです。施無畏は、人々の恐れを取り除いて安らぎを施すことを意味します。報徳園に入所された方やそのご家族が心から安心して日々の生活を送れるよう、尊厳を旨として援助していくことが、私たち職員の共通の理念であり、ねがいです。

政治の世界でも「安全・安心」という言葉が溢れていますが、お題目ばかり並べても心は平穏になりません。施無畏を成していくためには、

財施や法施の三施が一体となって作用する必要があります。社会福祉法人は本来利潤を追求するものではありません。公的な補助金等に加えて、人々の浄財による心からの寄付金で成り立っています。また、入所者の方は日々仏教の教えに接し、職員は仏教福祉の精神で取り組んでいます。財施と法施を基に施無畏の実践を深めていきたいと考えています。

このたび、「報徳園だより」を創刊するにあたり、理事長より表題の文字を揮毫していただきました。この表題と共に号数を重ねていく所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



入所者のみなさんの生活は、 心身の状況に応じて4つのゾーンに分かれています。

1丁目

1丁目の紹介をします。自ら自分の思いを相手に伝えることや自分で体を動かすことが難しい方が多く生活されています。だからこそ私たち職員が利用者の方の些細な表情の変化や思いに気づき、寄り添うことで、少しでもその人らしくゆったりと過ごして頂ける空間作りをモットーとしています。また医療に関わる方も多々みえるため、医務室と連携し、安心して過ごして頂いています。職員が笑顔で接することで、利用者の方のみなさんの笑顔や思いを引きだしていけるよう日々努めています。



2丁目

2丁目には、新聞を読んだり読書をしたり、折り紙を折ったり、パズルを楽しんだりして過ごされる方や、ベッドの上で過ごす時間が長い方まで、様々な方が見えます。そのため日々利用者の方々とかかわる中で心掛けていることは、「その人に合わせた介護」です。一人ひとりの個性を大切に、その方の生活リズムや習慣を尊重しながら、その方が笑顔で過ごせる時間を少しでも多くできるよう心がけています。そんな中、毎日の習慣として行っている夕食前の体操の時間には、みなさんが懸命に手足を動かし体操に取り組む様子が見られています。



3丁目

3丁目では、毎日、利用者の方のみなさんと職員と一緒に、ラジオ体操やうめぼし体操を行うのが、長年の日課となっています。他にも誕生会で行う音楽体操の練習もあり、月替わりで、季節に合った唱歌ですので、昔取った杵柄でしょうか？みなさん、楽しそうに歌っています。また、あまり外出の機会のないみなさんに、少しでも季節感を味わってもらいたく、四季折々の壁画作りをしています。職員が中心となり、利用者の方にも手伝ってもらい、中々の鯛作の出来上がりです。



4丁目

時代と共に認知症への理解も深まっていますが、その症状は様々です。イライラや不安、寂しさ等があり、その様子も一人ひとりの個性ではないかと感じます。日々の介護を通して嬉しく感じるのは、利用者の方との会話や、歌、体操を共に行うと、笑顔が見られ、私たち職員が心和む瞬間です。いつも元気な利用者の皆さんにパワーを頂き、時に癒され、利用者の皆さんが穏やかに生活できるよう"ONEチーム"となり、利用者の皆さん一人ひとりの個性を大切に、援助していきたいと思ひます。



デイサービスセンター報徳園

デイサービスセンターでは、利用者の方が可能な限りご自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練・口腔機能向上サービスを提供しています。心身機能の維持、回復だけでなく、ご自宅にこもりきりの孤立感の解消や、ご家族の介護負担軽減などを目的としています。

また、「デイサービスだより」を毎月発行していますので、機会があれば是非御覧下さい。



デイサービス一日の流れ

- 08:00～お迎え
- 09:00～朝の受け入れ、健康チェック、入浴
- 10:00～朝の集い（仏参・法話など）
誕生会等のレクリエーション行事
- 11:00～機能訓練（ラジオ体操・口腔体操）
- 11:30～昼食
- 12:00～休憩・午睡
- 14:00～レクリエーション（うめぼし体操など）
おやつ・園内、園庭散歩・工作
- 16:30～お帰り

在宅介護支援センターの業務



在宅介護支援センターでは、津市や地域包括支援センターと連携を図り、民生委員などの地域の方々の協力を得て、高齢者の介護や福祉に関する様々な質問や悩みなどについての相談受付、福祉サービスの情報提供を行っています。また、保健福祉サービスの利用手続きの受付や代行など、外出が困難な高齢者宅へ訪問し、手続きを代わって行う事もできます。担当地域である安東・新町地区はもちろんのこと、津市内にお住まいの方であればいつでも対応できますので、どんな事でもお気軽にご相談下さい。





入所者インタビュー

小川 ミツエ さん (98 才)

①入所前はどんな生活でしたか？

夫と二人暮らしで、田や畑をしていました。突然足が動かなくなり救急車で入院。他の施設に行き、その後ここに来ました。

②園での生活はどうか？

最高です。規則正しくできるし、職員さんは優しいし、清潔なところが一番好きです。ここの掃除には感心します。良い友達もいて、毎日の楽しみはTVを見る事です。普段から食事は残しません、行事の時の食事は美味しいです。日頃から身体を動かす事や、人の噂をしない事を心がけています。100才まであと2年、頑張ります。



家族インタビュー

福西 秀文 さん
(入所者 福西 尚美 さん 86 才)

①入所前はどんな生活でしたか？

8年間認知症の夫を介護した後、一人暮らしとなり3年程経った頃、本人にも認知症状が出始め、徐々に自宅での生活が困難となり、施設や病院を利用していました。

②入所後の生活はどうか？

職員さんの目が行き届いており、何かあった時は対応してくれるので安心です。体調は安定し、穏やかに暮らしています。おかげで安心して仕事に行けます。

③報徳園の環境、職員の印象は？

建物は古いですが、緑が多く、日当たりがよく、落ち着いていて、清潔なイメージです。職員さんはよくやって頂いています。温かく、面会に来やすい雰囲気です。



地域のみなさんへのインタビュー



河辺町自治会長 津市議会議員 田村 宗博 さん

河辺地区にある報徳園では年に一回、河辺地区主催の盆踊り大会を、園と協賛して行っています。人口の減少や、世帯の高齢化、独居世帯の増加もあり、地域の参加者は少なくなってきていますが、河辺地区を盛り上げるため、今後も魅力ある盆踊り大会を続けていきたいと考えています。また、報徳園には、自治会、地区社協、民生委員などと連携し、気軽に来られる介護保険の相談窓口となることや、その他にも、災害時の高齢者、障害者の受け入れ先となってもらうなど、河辺地区の自治機能の一端を担う施設となってもらえればと期待しています。

医務室より



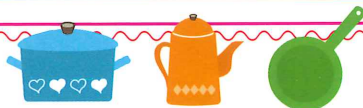
冬季になり、空気は乾燥し寒暖差もあり体調を崩しやすい季節となりました。感染症としては、インフルエンザ、ノロウイルス等に注意が必要です。医務室としても忙しい時期となってきました。

11月14日（木）午後から施設内において、恒例の園医の高橋先生による、入所者の方と職員へのインフルエンザワクチン予防接種を行いました。インフルエンザ予防としては、まず、ワクチン接種、手洗い、うがい、咳エチケット、マスク着用、加湿器使用、こまめな水分補給、自身の体調管理にも注意が必要です。栄養、睡眠、休養をしっかりととり、ストレスをためないようにして、免疫力を高める事が大切です。

又、口腔ケアにて口腔内を清潔に保つ事は、誤嚥性肺炎予防だけではなく、インフルエンザ予防に有効です。介護士と看護師が様々な時間帯を活用して口腔ケアを実施しています。昨年度は、入所者のインフルエンザ罹患者はゼロでした。今年度も感染者ゼロを目指し、感染拡大がない様に予防、対策に力を入れていきたいと思っております。



給食業務より



報徳園の食事は、園内にある厨房で作っています。給食業務を委託している施設も多い中、本園では全ての業務を施設職員である管理栄養士と調理員が責任を持って行っています。そのことで、調理現場と利用者の距離が近くなり、皆様の意見を反映させやすいメリットがあると考えています。

また、既製品や冷凍食品をなるべく使用せず、手作りにも力を入れており、お年寄りの楽しみでもあるおやつは、プリンや牛乳寒天、季節のお菓子などを手作りで提供しています。より家庭での食事に近いものを召し上がっていただくことで安心感のある食事作りを目指しています。

年末年始には、施設内では感じにくい季節感を味わっていただくため、杵つき餅やおせちを提供します。杵つき餅は、園内で餅つきを職員と共にを行った後、召し上がっていただきます。充実した生活を送っていただくため、厨房職員一同で力を合わせています。



—— 職員研修会開催 10月25日（金） ——

「虐待防止～虐待の芽について」

（講師：松枝桂子先生）

10月25日、「虐待防止～虐待の芽について」の題で高田短期大学非常勤講師、松枝桂子先生による園内研修会が集会室で行われ、経験年数3年未満の職員を中心に約30名の職員が研修を受けました。

高齢者虐待防止法の目的や特徴について、また、家族や施設職員等による高齢者虐待の具体的な話がありました。施設職員による高齢者虐待については、虐待の具体的な内容が介護・医療を中心とした事例で挙げられており、職員の日々の介護における言動について振り返ることができました。高齢者の特徴を把握することや原因を探りながら視点を変えることも大切であり、利用者への関わりひとつ、言葉ひとつで介護が変わり良い介護ができるとの指摘も印象的でした。

また、身体拘束についても講義を受け、身体拘束に該当する具体的な行為や緊急やむを得ない場合の要件、手続きについても再確認しました。現在、報徳園では入所者1名の方が安全ベルトを使用している状態です。日々の状態観察や24時間の記録をもとに毎月検

討しています。

研修後、参加職員からは「職場の人間関係づくりの重要性や利用者の気持ちを考慮できるようなケアを目指したい」との声が聞かれました。介護施設での職員による利用者虐待が新聞、ニュースなどで取り上げられる度に胸が痛く辛い気持ちになります。「自分は関係ない」「うちは大丈夫」と思わず、利用者が安心して過ごせる環境は整えられているか、職員間のコミュニケーションは図れているかなど、高齢者虐待に対する理解を深める努力を怠らないことが大切だと感じています。



—— 感染症研修会開催 11月14日（木） ——

ノロウイルス予防対策研修

11月14日、感染症に関する研修を1丁目ゾーンで行いました。

毎年、この時期になると各ゾーンでそれぞれが研修を行っています。研修に参加できなかった職員も別のゾーンで参加できるように調整して、介護・看護職員、相談員、介助員、厨房職員など職員全員が勉強できるようにしています。

「病原体を持ち込まない・持ち出さない・拡げない」を基本に、手の洗い方や嘔吐物などの扱い方（手袋、マスク、エプロン、ガウンの着用方法等）を実習して勉強しています。

インフルエンザなどの感染症が流行り出すと施設としても面会を一時中止とさせて頂く

場合もあり、特に冬の時期、ご家族にはご迷惑をお掛けしますがご理解のほど宜しくお願い致します。



人間に生まれたこと 大いなる喜びなり

武田 英機師（真宗高田派慈相寺住職）

現在、我々は人間として生を受けている。このことをどれくらい嬉しく思っているだろうか？ お釈迦様のお言葉に【人身受けが難し、今已に受く。】と言うのがある。この言葉の意味は、人間として、この世に生まれることは非情に困難だ。それなのに人々は人間に生まれてきたことをどれくらい喜んでいだろうか。と言う意味です。

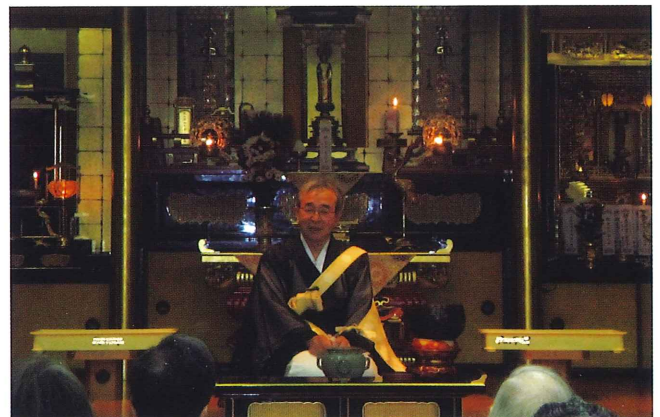
釈尊はこのことを「盲亀浮木（もうきふぼく）」の例えで、多くのお経で、お弟子さん方にお話されています。

『大海に盲目の亀がいる。この亀は、いつも海の中にもぐっているが、百年に一度海面に顔を出す。また、海面に浮き木があって、そこに穴があいている。浮き木は風によって、東に西に流されている。百年に一度、頭を出した亀が、ちょうどこの浮き木の穴にすっぽりと頭を入れるチャンスはどれくらいあるだろうか……。ひょっとしたら何憶年か何兆年に一度あるかも知れない。それほどの確率でしか人間に生まれることは難しいことなのだよ。と』

仏教では、我々は生まれ変わり、死に変わりして、輪廻転生しているという。次にどんな世界に生まれ変わるかわからない。従って人間として生まれている今、迷いや苦しみの世界から抜けださねばならないのだ。

そして、我々は人間に生まれているこのチャンスを無駄にしてはならない。そんな教えが、この言葉にこめられている。にもかかわらず、われわれは、この人生がまたとない機会だとしっかり認識しているだろうか……。

ひょっとしたら、うかうかと毎日を過ごしていないか。そんな反省を、したいと思う。



ボランティアさん紹介

津傾聴ボランティア会 瀧口さん、奥山さん、谷口さん

私達が傾聴ボランティアを始めたきっかけは、津市社会福祉協議会の傾聴ボランティア教室に参加したことです。その後も毎月勉強会に参加していますが、自分が話すのではなく、できるだけ相手に話してもらえようようにすること、話した内容は個人情報となるので他に漏らさないよう配慮することを心がけています。

報徳園には平成27年から月に一度訪問していますが、いつも花が飾られ、掃除がきちんとしてあり、綺麗な印象です。また、職員の方が挨拶をしてくれるので、来やすい雰囲気です。

利用者の方から若い頃の話や聞いた話、良い話を聞かせてもらい、元気をもらっています。中でも認知症の方との会話は難しい面もありますが、上手く会話が出来た時は嬉しく感じます。

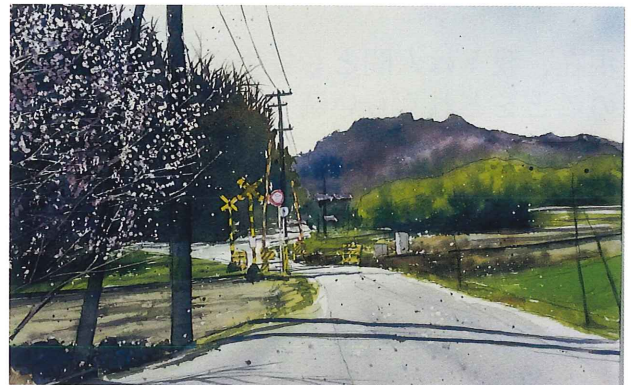


ギャラリー

集会所（仏間）前の廊下の壁は絵画や写真のギャラリーとして、入所者や来園者の和みと癒やしの空間となっています。月単位で10作品程を入れ替え展示しています。その中から、今回は木平貞光さんの写真と小川洋一さんの絵画を紹介します。



「通天の夜明け」（高田本山）木平貞光さん



「梅花咲く頃」（津市一志町）小川洋一さん

表彰

【表彰者】

長年報徳園に勤務し、その功績により今年度各種表彰を受けた職員を紹介します。

- ・三重県社会福祉協議会会長表彰
駒田恵美子（事務員：勤続29年）
瀬野須弥（相談員：勤続24年）
- ・全国老人福祉施設協会会長表彰
鎌田光則（調理員：勤続20年）
- ・全国老人福祉施設協会感謝状
大倉克之（介護士：勤続15年）
- ・三重県老人福祉施設協会会長表彰
南条千春（介護士：勤続10年）
小宮和也（介護士：勤続10年）
臼井民子（調理員：勤続10年）
中森友美（介護士：勤続11年）
淵脇晴香（介護士：勤続11年）

お知らせ

報徳園では毎月15日の午前10時から、高田本山より布教師の方をお迎えして、入所者の方やショートステイ利用者の方、デイサービス利用者の方々に「法話」を聴いていただく時間を設けています。ご家族や地域の方も自由に参加できますので、是非お越し下さい。

職員旅行

恒例の秋の職員旅行が職員互助会主催で10月と11月に行われました。琵琶湖、宝塚、松阪・伊勢、京都の4コースに分かれて、秋の1日を楽しみました。



霧の"びわ湖バレイ"



紅葉の"永観堂"

編集後記

令和という新しい時代、初めて迎える新年に、報徳園だより創刊号を発行いたしました。利用者の方々の日頃の様子、報徳園の取り組み等、各部署の思いをのせてお届けしました。最後に、今号の発行にあたり、ご協力頂きました皆さまに、心より感謝申し上げます。